

私の学生時代

紫水会のひとびと

岡 本 静 子

私の学生時代の思い出は毎日歩いた通学の道からはじまります。家が御所の南側にありますので御苑内の通り抜けが一番近道になるわけです。南の小門から入って宮内庁の前を通り紫宸殿までが第一コース、白い五線の土塀に沿った細い小川のの流れと共に歩いて紫宸殿の終りで第二コース。第三コースは赤い煉瓦の校舎を見上げながら今出川御門を出て学校着です。寂とした地平線の拡がりの優雅な御所は私達が未来を語る場で有ったり試験勉強の場であったりして、御所は学生時代

のなつかしい思い出があります。

卒業後はながく東京に暮しておりましたが十九年の暮れ近くに東京の爆撃をのがれて京都へ帰ってまいりました。さて京都に落つてみますと十四年間の空白がしきりと不安に変わり、お友達を探し求めて、あの人この人の消息をむさばるように聞いたものでした。

若くて亡くなられたお友達が遺された幼い二人の子供を引取って自分の子供と一緒に育てあげ、大きくなった娘達を父親の許に返されたお友達のこと。愛する人の子供達を育てることに生甲斐を求めて結婚され、精神的にも高い幸福な家庭を持っていられるお友達のこと。学生時代は宗教部で活躍され、結婚後は同窓会活動に奉仕され、秋のバザー作品作りもそのお仕事の一部ですが、家庭と奉仕活動の均衡を立派にたもっていられるお友達のこと。戦前に御主人と共に満州に赴任され戦後未だに消息が絶えていた幾人かのお友達も、その苦境を越えて、今は新鮮な人世の幸せを築き上げていられます。私のクラスメートは卒業後それぞれの求め与えられた場所です同志社の精神をふくふくと生かされていられた。

2

私たちのクラスの名は紫水会と言います。

この名前は担任の荻原先生が卒業式の日に命名して下さったのでした。一年に春秋二回と決められたクラス会が今日まで必ず実行されて来たことは、京都在住の誠実で責任感の強い人達のお陰です。

その当時も英文科の校舎はジェームス館でした。今出川に面したジェームス館の前の芝生にある枝垂梅がちょうど新学期を迎える四月になりますと見事なうすとき色の花を咲かせました。花ふぶきの下で、三三、五五とたむろしている女子大生の和服と空色の袴姿は誠に優雅そのものでした。今もあの枝垂梅はあの場所で春になると花を咲かせているのでしょうか。

その頃は私たちの英文科は専門学部英文科と言って、格式は今日の大学に匹敵していたようです。明けても暮れても毎日辞引きと首引きの勉強勉強でしたが、今から思えば教授陣の三割までが外人教授でしたので、原書での英語の講義では勉強せざるを得なかったのだと思います。しかもその当時はテレビも

無くレジャーの遊びも少なく、ボーイフレンドとの交際も合同のクラブ活動以外はそれほど自由とは言えなかったようでした。女子部子部の校庭に通じる裏木戸があつて、そこをくぐり抜けると男子部テニスコートがありまして。何時も白いスポーツシャツの人たちがラケットをふつていましたが、通り抜けを禁ずのお達しがしばしばあったことなど思い出します。

3

私たちが教えられた外人教授で印象深い先生はヒバート先生、先生には英文学史を習いました。昨年でしたか日本の文学博士号を受けられました。先生の日本語は文法的にも正確で実にお上手ですが、先生が同志社へ赴任された頃に日本の小学読本のハタ、タコ、マメから日本文学と会話を教えて差上げ、同時に正しい英会話をマスターされたのは私のクラスメートでした。グイン先生は長い髪のを三つ編みにしてオリンピアの神子のようにぐるりと頭に捲いていられたが、先生のお授業ではイノック・アーデンが楽しい思い出に残っています。詩もロマンチックですが

解り易い先生の英語解説が理解出来たからでしょう。

昨年のリュニオンに出席のためわざわざニューヨークから帰ってこられたクラブ先生には声楽を習いました。黒いピアノの前に坐つていられた先生のドレス姿のプロフィールを美しいと眺めていたものでした。

私達が二年になった時でした。ステューデントプロフェッサーの資格でアメリカから赴任された二世の若い先生は、今は吉川夫人でいられるミス後藤先生で、京人形のように黒い髪の毛のショート・カットでしたが、このヘア・スタイルは今は世界のモードになっております。アメリカの新聞を読ませて下さったミス迎先生、ミスター坂巻兄弟先生たちでした。

私達はアメリカの新鮮な若々しさをこの新しい若い先生を通して十分に感じ取ることが出来ました。同志社大学のESSは先生たちの若さに溢れた指導によって国内では連続優勝を獲得、ハワイ遠征でも優勝されるなどと、その当時は私のクラスからもスピーチのチャンピオンを送り出し、誠に誇り高い頃でした。

私たちが英文学を通じて精神的にも深められたのは元女子大学長の滝山先生でした。先生は主に英文法のお講義をされていましたが一句一句の文章の説明の中に先生の考えていられる世界観が交えられ、女子教育にかけていられる情熱や英文学的研究の深さを感じさせられました。私達の血にも肉にもなるお話を沢山して下さいました。

奥様のミセス滝山はクラスメートです。ゴシップになりますが、私達の学年が卒業いたしますと間もなく、三人のお友達が当時の独身だったプロフェッサーと結婚されました。ミセス滝山、亡くなられた加藤禎二先生の奥様、斎藤先生の奥様たちです。

一つの理想に向つて純粹に生きようとする勇氣を持つことの可能な時代だったのでしようか、精神生活に恵まれた良き時代であったと思います。

(昭五女専卒・丸物洋裁学校長)

*

*

*

*